

## 道路空間から広がるまちの魅力と新たな展開 ~続・道路空間活用勉強会における議論から~

- 令和2年11月の「歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）」制度の創設から1年半余りが経過し、目に見える形での道路空間活用の取組が増えつつある。
- 一方で、道路空間にベンチやテーブルを置くことはゴールではなく、道路を起点にエリア全体へ賑わいや居心地の良い空間が広がり、循環していくことが重要ではないか。
- そのための課題として、道路空間活用勉強会※における新たな論点を提示するとともに、ほこみち指定箇所の現地状況等を報告する。

### ほこみち\*指定箇所に生まれた新たな景色 (現地体験報告)

- CASE1: 大阪 御堂筋
- CASE2: 神戸 三宮中央通り
- CASE3: 姫路 大手前通り



\*全国30自治体・国、81路線で指定済み(令和4年6月時点)

### 勉強会における新たな論点

- ✓ 収益確保と公共性のバランスとは？
- ✓ 道路空間活用の担い手と組織、どうあるべきか？
- ✓ 道路管理者の主体的な参画を促すには？

### 道路空間活用の新たな展開

- ✓ 新たなモビリティとほこみちの相性を考える



まちのリビングのような過ごし方が  
街に滲み出る(池袋)  
(提供: 株式会社nest)



自分ごととして参加したくなる  
まちづくり(前橋市)  
(提供: 前橋市)



気軽に立ち寄りた、まちの縁側空間(松本市)  
(提供: 松本市)

※道路空間活用勉強会: 官民の有志メンバーによる勉強会。令和2年10月から令和4年7月現在まで17回に渡りオンライン形式にて開催している。